第七講　漢詩　／　漢文読解法

一　漢詩の基礎知識

A「形式」

①　五言詩（一行五文字）　／　七言詩（一行七文字）

②　**絶句（四行）**　／　**律詩（八行）**　／　古詩（それ以外）

＊「一行の字数」と「行数」から①と②を組み合わせて答える。

（例）五言絶句・七言律詩…など。

B

「押韻する字」…音読みしたときに母音が同じ

＊　●＝押韻している文字

①　五言詩＝**偶数句の末字**

○○○○○　○○○○●

○○○○○　○○○○●

②　七言詩＝**（初句と）偶数句**の**末字**

○○○○○○●　○○○○○○●

○○○○○○○　○○○○○○●

C　「対句の見分け方」

奇数句・偶数句の順で**返り点の打ち方が同じ**（ただし、再読文字を含むときは除く）場合は、ほぼ対句（＊例外も多いので注意）。**品詞・文構造・意味内容ともに対称**である点がポイント。

＊律詩（八行）の場合、「**三句と四句**」と「**五句と六句**」が原則として対句。

たとえば、李白の「送友人」は「一句と二句」「五句と六句」が対句で、このように例外もあります。両方でも、どちらかでも、また、それ以外の「一句と二句」や「七句と八句」も対句になっている場合も、対句は見ればわかるはずですので、「対句の見分け方」をしっかりおさえて確認してください。

D　「段落分け」

① 四行＝一行ずつ（**起承転結**）

② 六〜十行＝二行ずつ　＊律詩⬇首聯（しゅれん）・頷聯（がんれん）・頸聯（けいれん）・尾聯（びれん）

③ 十二行以上＝四行ずつ

★主題は最終段落

E　「意味のまとまり」

① 五言詩＝2・3　（例）十月鷹出籠

② 七言詩＝2・2・3　（例）炎（えん）涼（りやう）昏（こん）暁（げう）苦（はなはダ）推遷（シ）

注　推遷…移り変わる。

二　次の詩を読んで、後の**問**に答えよ。

沙場征(せい)戍(じゅ)ノ客
寒苦若(い)為(か)ニカ眠ル
戦袍経(ふ)二手作ヲ一
知ランレ落ツルヲ二阿(た)誰(れ)ノ辺ニカ一
蓄ヘテレ意ヲ多ク添ヘレ線ヲ
含ンデレ情ヲ更ニ着クレ綿ヲ
今生已ニ過グル也
結ビ二‐取ラン後身ノ縁ヲ一

問一　この詩の形式を答えなさい。

問二　韻字をすべて抜き出しなさい。

問三　対句が何組用いられているか、答えなさい。

三　次の詩を読んで、後の**問**に答えよ。

我来リテ二揚子江頭ニ一望メバ
一片ノ白雲数点ノ□
安得丁置キ二身ヲ天柱頂ニ一
倒（さかしまニ）看ルヲ丙日月ノ走ルヲ乙人間ヲ甲

注　揚子江…長江の別名。
　　天柱…神話の中に出てくる、天を支えているという柱。

問一　この詩の形式を答えよ。

問二　傍線部「一片白雲数点□」について、（a）空欄に入る語と、（b）この句全体の解釈との組合せとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　（a）淡――（b）白い雲の切れ間から数本の淡い光が差し込んでいる。
イ　（a）楼――（b）空の片隅に浮く白い雲と幾つかの建物が見えている。
ウ　（a）雨――（b）白い雲が空一面に広がり雨がぽつぽつと降り始める。
エ　（a）山――（b）ひとひらの白い雲と幾つかの山があるばかりである。
オ　（a）鳥――（b）空には一つの白い雲が漂い数羽の鳥が飛んでいる。

四　漢文読解法

【手順】

①　設問チェック
　＊　句法・語法で解けるもの＝即解答
　＊　絞れる選択肢は絞っておく
　＊　その他は何をきかれているかを確認
②　注マーク確認
③　前書きの有無確認→あれば必ずきちんと読むこと
（④　出典確認）

【設問別解法】

〈単語の意味〉

・仲間外れの選択肢が一つだけ＝それが解答

〈例題一〉　次の中から「過」の意味が異なるものを選べ。

ア　過度　　イ　過酷　　ウ　過失　　エ　過剰　　オ　超過

・二字熟語にして意味を類推する

〈例題二〉　次の傍線部のここでの意味と同様の意味を表す熟語として最も適当なものを選べ。

好(ミテ)二行幸(ヲ)一不レ息、人(ノ)所(ナリ)レ不(ル)レ堪(ヘ)。

ア　棲息　　イ　利息　　ウ　嘆息　　エ　終息

〈書き下し文〉

・基本構造＝語順確認➡送り仮名確認
・重要句法確認
・傍線部の前後に**対句**・**対文**がないか確認
・訳してみて意味不明な場合＝誤り
・選んだ訳を本文中にあてはめ、文脈確認

〈理由〉

・傍線部自体を正確に訳す
　➡**傍線部を本文で確認**＝設問箇所では白文でも、本文中には返り点や送り仮名がついていることもある（左記の解釈・部分説明も同様）。
・傍線部の前後に注目

〈解釈・部分説明〉

・傍線部を含む一文全体を読む
・指示語があれば指示内容を明確にする
・傍線部前後の文脈を確認

〈主張・主題〉

・**結末部**

五　次の文章を読んで、後の**問**に答えよ。（設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。）

放レ鷹（たかヲ）　白居易（はくきよい）

①十月鷹出レ籠（かごヲ）、　②草枯雉兎（ちと）肥。

③下レ韝（注1）（こうヨリ）随二（したがヒ）指（注2）顧一、　④百擲（注3）（てきシテ）無二一 A 一。

⑤鷹翅（つばさ）疾（はやキコト）如レ風、　⑥鷹爪（つめ）利（するどキコト）如レ錐（きりノ）。

⑦B本為二（なり）鳥所レ設、　⑧今為二人所レ資。（⑦⑧に傍線B）

⑨C孰能使二之然一、　⑩有二術甚易（やすキ）レ知。（⑨に傍線C）

⑪D取二其向背性一、　⑫制在二飢飽時一。（⑪に傍線D）

⑬ 不レ可カラレ使ム二長ク飽カ一、　⑭ 不レ可カラレ使ム二長ク飢ヱ一。

⑮ 飢ウレバ則チ力不レ足ラ、　⑯ 飽ケバ則チ背キテレ人ニ飛ブ。

⑰ 乗ジテレ飢ヱニ縦(ゆる)シ二搏(はく)(注4)撃スルヲ一、　⑱ 未ダレ飽カルトキ須クシ二縶(ちふ)(注5)維(ゐ)スヲ一。

⑲ 所(ゆ)以(ゑ)ニ爪(さう)翅(し)ノ功アルモ、　⑳ 而人坐(ざ)シテ収ムレ之ヲ。

㉑ 聖明ノ馭(ぎよ)スル二英雄ヲ一、　㉒ 其ノ術モ亦(また)如シレ斯(か)クノ。

㉓ E鄙(ひ)語不レ可カラレ棄(す)ツ、　㉔ 吾聞ケリ二諸(これ)ヲ猟師ニ一。

（『白香山詩集』による）

（注）1 韝——鷹を止まらせるために腕につける革具。
2 指顧——指さし顧みること。指示。
3 擲——投げ放つ。
4 搏撃——襲いかかる。
5 縶維——つなぐ。

問一 空欄 A に入る語として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア 中　イ 遺　ウ 敗　エ 至　オ 失

問二　この詩の中には対句が用いられている。次の組み合わせの中から双方とも対句であるものを選ぶとすれば、どれが最も適当か。次の中から一つ選べ。

ア　①②と⑪⑫　　イ　⑤⑥と⑮⑯　　ウ　⑦⑧と⑬⑭
エ　⑬⑭と⑮⑯　　オ　⑰⑱と㉑㉒

問三　傍線部Ｂ「本為㆓鳥所㆑設㆒、今為㆓人所㆑資㆒」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　鷹は、もともと獲物を捕る才能を備えており、今も人のために役立っている。
イ　小鳥は、もともと鷹が食料としていたものであるが、今では人が食料としている。
ウ　雉(きじ)や兎(うさぎ)は、もともと鷹のために天が授けたものであるが、今は人の食料となっている。
エ　翼や爪は、もともと鷹のために付けられているものなのに、今は人に利用されている。
オ　鷹狩りは、もともと鷹の訓練のために始められたものであるが、今では人の娯楽となっている。

問四　傍線部Ｃ「孰能使㆓之然㆒」の読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　孰(たれ)ぞ能(よ)く之を然らしめん。
イ　孰(たれ)の能(のう)か之(ゆ)きて然らしめん。
ウ　孰(たれ)か能(よ)く之をして然らしめん。
エ　孰(いづく)んぞ能(よ)く之を然りとせしめん。
オ　孰(いづ)れの能(のう)か之をして然らしめん。

問五　傍線部Ｄ「取二其向背性一」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　獲物が鷹を恐れて背を向ける習性を利用する。
イ　鷹が何を好んで何を嫌うのかをよく見て取る。
ウ　鷹が獲物の背後に向かう性質をよく読み取る。
エ　鷹が従順であったり反抗したりする性質を利用する。
オ　鷹狩りの際に方角や位置に利があるかないかを読み取る。

問六　傍線部Ｅ「鄙語不レ可レ棄」とあるが、なぜ作者はこのように言っているのか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　単に鷹狩りの話ではあるが、弱肉強食の人間界を風刺しているから。
イ　無味乾燥な政治の話ではあるが、純朴な猟師に聞かせても納得したから。
ウ　一介の猟師から聞いた話ではあるが、実に動物の習性を研究し尽くしているから。
エ　私のような門外漢の観察記ではあるが、猟師に聞いても間違っていなかったから。
オ　猟師から耳にした卑俗な話ではあるが、名君と臣下との関係を示唆しているから。

復習問題　第七講　漢詩／漢文読解法

① 次の詩を読んで、後の問に答えよ。

*1江楼夕望招レク客ヲ

第1句　海天東望夕*2茫（ぼう）茫（ぼう）
第2句　山勢川形闊復長
第3句　灯火万家城ノ四畔
第4句　星河一道水ノ中央
第5句　風ハ吹ク二古木ヲ一晴天ノ雨
第6句　月ハ照ラス二平沙ヲ一夏ノ夜ノ霜
第7句　*3能（よ）ク*4就（つ）キテ二江楼ニ一銷（け）スヤレ暑ヲ否（いな）ヤ
第8句　*5比スレバ二君ガ*6茅（ばう）舎（しや）ニ一校（やや）清涼ナラン

（白居易『白氏文集』）

［注］
＊1　江楼＝江（かわ）のほとりのたかどの。
＊2　茫茫＝ひろびろとしている。
＊3　能…否＝…することができますか？
＊4　就＝（場所）で。
＊5　比…校…＝…にくらべて少しは…。
＊6　茅舎＝茅葺（かやぶ）きの家。

問１　第２句の書き下し文として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　山の勢い川の形の闊（ひろ）く長きを復（ふく）す。
イ　山勢川形、闊（ひろ）くして復（また）長し。
ウ　山は川の形の闊（ひろ）くして、復（また）長く勢いよし。
エ　山の勢いも川の形も、闊（ひろ）くして復（ふたたび）長し。

問２　この詩には二組の対句がある。その組み合わせとして、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　第１句と第２句　第３句と第４句
イ　第２句と第４句　第５句と第６句
ウ　第３句と第４句　第５句と第６句
エ　第４句と第５句　第６句と第７句

② 傍線部について、空欄に入る語として最も適当なものを、後の中から選べ。

銅(どう)雀(じやく)台(だい)ノ址(あと)頽(くづ)レテ無シレ遺(のこ)ス　何ゾ乃チ剰(じよう)瓦(が)ノ多キコト如クナランレ斯クノ

文士例(おほむね)有リ二好ムレ奇ヲ癖一　心ニ知ルモ二其ノ妄ナルヲ一<u>姑(しばら)ク自ラ□</u>

ア 愉　イ 娯　ウ 詐　エ 欺　オ 虚

③ 次の詩を読んで、後の問に答えよ。

春江　（唐）白(はく)居(きよ)易(い)

① 炎(えん)(注1)涼(りやう)昏(こん)暁(げう)苦(はなは)ダ推遷(注2)シ

② 不レ覚エ忠(注3)州ニ已(すで)ニ二年

③ 閉(注4)ザシテレ閣ヲ只(ただ)ダ聴ク朝暮(注5)ノ鼓(つづみ)

④ 上楼空望往来船

⑤ 鶯（あう）声（せい）ニ誘（いう）引（いん）セラレテ来タリ㆓花下ニ㆒

⑥ 草色ニ勾（こう）留（りう）セラレテ坐ス㆓水辺ニ㆒

⑦ 唯有春江看未厭

⑧ 縈（めぐ）リ㆑砂ヲ遶（めぐ）リテ㆑石ヲ緑（注6）潺（せん）湲（えん）タリ

（『白氏文集』巻十八による）

（注）
1 炎涼昏暁――厚さと寒さ、夜と朝。
2 推遷――移り変わる。
3 忠州――今の四川省忠県。作者はここに左遷され、二年間の役人生活を送った。
4 閉㆑閣――建物にとじこもること。
5 朝暮鼓――朝夕の時刻を知らせる太鼓の音。
6 潺湲――水のさらさら流れるさま。

問1 この詩は七言律詩である。押韻しているのはどの字か。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 遷　年　船　湲
イ 年　船　辺　湲
ウ 遷　年　船　厭　湲
エ 遷　年　船　辺　湲
オ 年　船　辺　厭　湲

問２　三、四句が対句になっていることに留意しつつ、四句目の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　楼に上りて空しく望む往来の船
イ　楼に上りて空望するや往来の船
ウ　楼を上りて空より望めば往来の船
エ　楼を上りて空しく望めば船往来す
オ　楼に上りて空より望めば船往来す

【第七講】

〔模範解答〕

〔例題一〕　ウ

〔例題二〕　エ

二

問一　五言律詩　**問二**　眠・辺・綿・縁　**問三**　一組

三

問一　七言絶句　**問二**　エ

五

問一　イ　**問二**　ウ　**問三**　エ　**問四**　ウ　**問五**　エ　**問六**　オ

〔現代語訳〕

二

戦場で国境の守備につく兵士よ、寒く辛い中、どのように寝ているのですか。軍衣は私の手作りですが、誰の元に届くのか知ることができましょうか。思いを込めて糸をたくさん使って縫い、気持ちを込めてさらに多くの綿を入れました。現世ではすでに別れて過ぎてしまいましたが、来世で夫婦として縁を結びましょう。

三

私は揚子江のほとりに来て望見すれば、ひとひらの白い雲と幾つかの山があるばかりである。我が身を天柱の先端に置いて、太陽や月が人間界を巡っていくのを上から逆に眺めてみたい。

五

十月に鷹は籠を出て、草は枯れて雉や兎は肥えふとる。
鷹は腕につける革具から下りて猟師の指示に従い、百回投げ放って一度も失敗することはない。
鷹の翼は風のように速く、爪は錐のように鋭い。
翼や爪は、もともと鷹のために付けられているものなのに、今は人に利用されている。
誰が鷹にそのようにさせる（人のために狩りをする）ことができるのか、じつはとてもわかりやすい術がある。
鷹が従順であったり反抗したりする性質を利用し、飢えている時や満腹の時に制御するのである。
長く満腹にさせてはいけないし、長く飢えさせてもいけない。
飢えると鷹は力が足りず、満腹になれば人に反抗して飛び去ってしまう。
飢えを利用して襲いかからせ、まだ満腹になる前に必ず繋がなければならない。
こういう理由で爪と翼によって手柄を立てるのだが、人はいながらにしてこの手柄を自分のものにする。
優れた君主が優れた臣下を操る術も、やはりこのようである。
卑しいものが語った話も捨てるべきではない、私はこの話を猟師に聞いた。

復習問題解答　第七講　漢詩　／　漢文読解法

〔解説〕

① **問1**　「復」は「また」と読んで、「ふたたび」の意味。よって、アとエは削る。**七言詩**のリズムは**2・2・3**なので、正解はイ。

問2　**律詩**は**3・4**句目と**5・6**句目のどちらかは**対句**。なので、可能性が高いそれらから確認すると、どちらも返り点の打ち方が同じで構成要素も同じ。よって、正解はウ。

② **押韻**の問題。**七言詩**なので、**初句と偶数句の最後の文字**「遺」＝i、「斯」＝shiと共通する母音「・i」となるものを選ぶ。アはyu。イはgo。ウはsa。エはgi。オはkyo。よって、正解はエ。

③ **問1**　②同様、七言詩なので、初句と偶数句の最後の文字が押韻する。よって、正解はエ。

問2　対句する③の読み「閣を閉ざして只だ聴く朝暮の鼓」と同じ構造にならなければいけない。④の最後の三文字「往来船」は「往来の船」になる。よって、ア、イ、ウのどれかに絞る。四文字目の「望」は、③の「聴く」より動詞の終止形となる。「閣**を**」の送り仮名より、ウ「楼**を**」を選んだ人もいるかもしれないが、「空より望めば」の読みと「只だ聴く」は同じとは言い難い。やはり「空しく望む」と「只だ聴く」が同じ構造と考えられる。したがって「楼**に**」ではあるが、アが正解。ちなみに、五・六句も対句である。

〔解答〕

① **問1**　イ　　**問2**　ウ　　② エ　　③ **問1**　エ　　**問2**　ア